

【横浜ベイウォーク】

横浜駅東口に2006年8月にオープンした、潮風を感じながらショッピングや食事が楽しめる商業施設。

【開港の道】

海岸通地区に残っていた旧臨港鉄道高架を利用して「山下臨港線プロムナード」という散策路が整備され、それに伴って臨港部を辿る「開港の道」という散策ルートが2002年春に設定。「山下臨港線プロムナード」を歩くと「象の鼻」地区を間近に横浜港の眺望が楽しめる。

象の鼻:大棧橋の根本から湾に向かって微妙な曲線を描いて伸びる突堤が、有名な「象の鼻」だ。横浜港開港に際して幕府が築いた二本の石組み突堤の内、当時イギリス波止場と呼ばれた外国貿易用の東側突堤に1866年(慶応2年)の大火の後、湾曲する形で拡張された部分が、現在も「象の鼻」として残る。

【大棧橋】

2002年、3万トンクラスまでの客船は4隻、それ以上のクラスの客船は2隻の同時着岸が可能。本格クルーズ時代を迎えた日本の、世界に誇れる国際港が誕生した。 地下1階、地上2階建て・鉄骨造建物の長さ約430m、最高高さ約15m、幅約70m 全体床面積 約44,000m² 山下側岸壁(A・Bバース)延長450m、水深12m、エプロン幅20m新港側岸壁(C・Dバース)延長450m、水深10~11m、エプロン幅20m 渡船橋4基 建物設計者 アレハンドロ・ザエラ・ポロ氏 / ファッシド・ムサヴィ氏(イギリス在住建築家)

【汽車道】

明治44年(1911年)海外との貿易がさかんになり、新港埠頭から横浜停車場(現桜木町)まで物資を輸送するため臨港鉄道が新設された。その遺構を 保存、整備して、細長い人工島と橋梁とを組み合わせて作られたのが現在の汽車道。